

社会政策学会 Newsletter

- ◇ 学会本部 同志社大学 社会学部 埋橋孝文研究室
URL: <http://jasps.org/> TEL: 075-251-4502 E-mail: uzuhashi01@gmail.com
- ◇ 編集・発行 埋橋孝文(代表幹事) 郭芳・首藤若菜(Newslatter 担当幹事) 所道彦(事務局長)
- ◇ 事務センター 〒162-0825 東京都新宿区神楽坂 4-1-1 オザワビル (株)ワールドプランニング
Tel:03-5206-7431 Fax:03-5206-7757 E-mail:jasps@worldpl.jp

【目次】

1. 第 139 回 (2019 年度秋季) 大会の開催予告および報告募集
2. 『社会政策』への投稿お願いと査読状況のお知らせ
3. 現在の会員種別人数
4. 専門部会 2018 年度活動報告
5. 地域部会 2018 年度活動報告
6. 会員のご逝去について
7. 2016-2018 年幹事会報告
8. 承認された新入会員

※第 139 回大会の自由論題報告, テーマ別分科会開催を申請され, 採択済みの方は, 学会ホームページ上の「第 139 回 (2019 年度秋季) 大会自由論題報告, テーマ別分科会の募集について」をご覧ください。フルペーパー・ファイルを 9 月 23 日 (月) ~ 9 月 30 日 (月) の期間内にご提出ください。締切の厳守をお願いいたします。

(秋季大会企画委員会 吉村臨兵)

2. 『社会政策』への投稿お願いと査読状況のお知らせ

1. 第 139 回 (2019 年度秋季) 大会の開催予告および報告募集

第 139 回大会は以下のように開催いたします。

日 時 : 2019 年 10 月 19 日 (土) ~ 10 月 20 日 (日)

会 場 : 法政大学 市ヶ谷キャンパス

■10 月 19 日 (土) 書評分科会,
共通論題「社会的投資戦略と教育」

●座 長 : 居神 浩 (神戸国際大学)

●報告者 :

- ①森 直人 (筑波大学)
- ②荒木 宏子 (近畿大学)
- ③尾川 満宏 (愛媛大学) *非会員
- ④筒井 美紀 (法政大学)

■10 月 20 日 (日) 自由論題, テーマ別分科会

*自由論題報告, テーマ別分科会の募集は, 学会ホームページおよび一斉メールでお知らせのとおり, 6 月 14 日 (金) で終了しました。

学会誌編集委員会では, 会員の皆様の論文投稿をお待ちしております。この間, やや投稿論文が少ない傾向にあります。継続的に一定数の論文を掲載していくために, 会員の皆さまの積極的な応募を願っております。

なお, 投稿の判断材料にさせていただきたく, 委員会では毎年 1 回, 1 年間の投稿数と掲載決定数をお知らせすることにしました。

2017 年 7 月末締め切り分から 2018 年 4 月末締め切り分の 1 年間では投稿数 26 本に対して掲載決定は 11 本となっております。

投稿規程および執筆要領をお読みいただき, ぜひご投稿よろしくお願ひします。次回締め切りは 2019 年 7 月末, その次は 10 月末です。詳しくは学会 HP をご覧ください。会員のみなさま, 積極的なご投稿をよろしくお願ひします。

(社会政策学会誌編集委員会・委員長 石井まこと)

3. 現在の会員種別人数

会員種別	人数	内訳	
		男	女
正会員	905	617	288
常勤職についてない会員	98	56	42
院生会員	134	69	65
外国人会員 (A)	7	1	6
外国人会員 (B)	6	2	4
名誉会員	35	29	6
総計	1185	774	411

4. 専門部会 2018 年度活動報告

【総合福祉部会】

2018年度の総合福祉部会の定例研究会を、下記のような日程・内容で行った。

日 時：2019年3月24日（日）13:30～17:00

場 所：京都府立大学「稲盛記念会館」106号室

テーマ：「生活保護における『自立論』」

- 1) 戸田 典樹（神戸親和女子大学）「生活保護制度における自立論の歴史的変遷」
- 2) 桜井 啓太（名古屋市立大学）「生活保護における『3つの自立論』の批判的検討」
- 3) 田中 聡子（県立広島大学）「低所得母子世帯の自立支援」

座 長：深澤 敦（立命館大学）

コメント：大塩まゆみ（龍谷大学）

第一・第二報告者は、共に福祉事務所で生活保護担当ケースワーカーとしての実務経験をもつ研究者である。戸田氏は、生活保護制度における自立論を「適正化」政策と現場実践から生まれるものとし、時期区分してその変遷を明らかにした。桜井氏は、これまでの自立論を批判的に検討して「自立」概念への疑問を問題提起した。第三報告の田中氏は、母子世帯へのアンケート調査とインタビュー調査から特に生活保護受給と非受給の母子世帯の比較検討をし、母子世帯への就労支援だけでは生活保護受給の母子世帯の自立は困難であると論じた。

3つの報告を受けて、最低生活保障（経済給付）と自立助長あるいは自立支援（社会福祉サービス）の関係性をめぐり議論が展開された。参加者からの発言により北欧やフランスと比べた日本の生活保護行政の問題点等についても考えることができた。今後、これらの議論を発展させ、論点を整理すれば、さらに意義ある論争が展開できるので

はないかと期待する。

今回の参加者は12名で少なかったが、質疑応答も活発に行われ議論が盛り上がった。時間延長してもまだ時間が足りなかったため、続きは社会政策学会春季大会に持ち越したい。

（文責：大塩まゆみ）

【労働史部会】

2018年度の労働史部会は、6月24日（日）に明治大学のアカデミーコモンにおいて行われた、若林幸男編著『学歴と格差の経営史』（日本経済評論社、2018年）の合評会を共催した。

◆『学歴と格差の経営史』合評会

（共催：社会政策学会労働史部会）

日 時：2018年6月24日（日）14:00～17:00

（開場 13:30）

場 所：明治大学・アカデミーコモン（AC）、309E教室

テーマ：若林 幸男編著『学歴と格差の経営史』（日本経済評論社、2018年）の合評会

1. 若林 幸男（明治大学）「本書の成り立ちと概要」

2. コメント

梅崎 修（法政大学） 労働研究の立場から

森 直人（筑波大学） 教育社会学の立場から

五十畑浩平（名城大学） フランスの労働・教育研究の立場から

3. 執筆者を交えての質疑応答

参加者：28名

（文責：栢田大知彦）

【非定型労働部会】

非定型労働部会では、社会政策学会第136回大会で「雇

用関係によらない雇用類似の働き方は柔軟な働き方か」をテーマにしたテーマ別分科会を開催した。安倍政権の働き方改革で、「柔軟な働き方に関する検討会」と「雇用類似の働き方に関する検討会」が開催され、ホットイシューであったため、出席者も多く盛況であった。フルペーパーについては、『社会政策』（第10巻第3号）に小特集として掲載された。川上資人弁護士のフルペーパーも掲載予定であったが、月刊誌『経済』の2018年9月号（No.276）に寄稿されたため、『社会政策』には掲載されないことになった。関心のある方は、そちらを参照いただきたい。

また、2019年5月に高知県立大学で開催予定の社会政策学会第138回大会でのテーマ別分科会の事前研究会として、ジェンダー部会と共催で例会を開催した。午後から東海部会の例会が開催されたこともあり、参加人数は、11名で活発な議論が交わされた。

さらに、田中洋子会員より国際シンポジウムの後援の依頼があり、日本とドイツの非正規労働の比較に関するテーマであったことから、専門部会として後援することになった。

○第136回大会テーマ別分科会の開催○

日 時：2018年5月26日（土）12:45～14:45

場 所：埼玉大学1号館304講義室

テーマ：「雇用関係によらない雇用類似の働き方は柔軟な働き方か」

座 長：伊藤 大一（大阪経済大学）

コーディネーター：渡邊 幸良（同朋大学）

高野 剛（立命館大学）「在宅ワークで働く母子家庭の母親と障害者の実態—面接聞き取り調査から」

柴田 徹平（岩手県立大学）「個人請負就労者にはどのような保護政策が必要か—建設職種から考える」

川上 資人（東京共同法律事務所・弁護士）「シェアリングエコノミーと労働者の権利」

○例会の開催○

日 時：2018年12月15日（土）11:00～13:30

場 所：名古屋経済大学名駅サテライトキャンパス
54教室

水野 有香（名古屋経済大学）「派遣労働者と出産・育児」

伊藤 ゆかり（大阪大学）「妊娠・出産の高年齢化と仕事の継続」

田中 洋子（筑波大学）「出産による就業継続—断絶をめぐる日独比較」

○国際シンポジウムの後援○

テーマ：正規・非正規の構造変化と雇用の未来～日本とドイツの比較から考える～

日 時：2019年3月3日（日）14:00～17:00

場 所：筑波大学東京キャンパス119講義室
参加費無料・通訳付き

報告者：ハルトムート・ザイフェルト（経済社会研究所前所長、労働政策研究・研修機構特別研究員）、ヴォルフガング・シュレーダー（カッセル大学教授）、三山雅子（同志社大学教授）、田中洋子（筑波大学教授）

司 会：山田 和代（滋賀大学教授）

（文責：高野 剛）

【日本・東アジア社会政策部会】

2018年度は、大会におけるテーマ別分科会の開催と社会保障国際論壇への協力を中心に活動を行ってきた。

1. 大会への参加

2018年度春季（第136回）大会（埼玉大学）において、国際交流分科会（中国における「福祉社会」と家族政策、国際交流委員会との共催）を企画した。この分科会では、中国社会政策研究を代表する2人の研究会を招き、「家族」と「福祉社会」をキーワードに中国の社会政策と研究の最新動向について紹介してもらい討論を行った。

座長・コーディネーター：李 蓮花（東京経済大学）

報告1：林 閔剛（南京大学）「中国の『福祉社会』論」

報告2：黄 晨熹（中国華東師範大学社会発展学院）

「中国都市部における家族介護者への社会的支援：上海を中心に」

討論者1：森川 美絵（津田塾大学）

討論者2：澤田ゆかり（東京外国語大学）

2. 社会保障国際論壇への協力

2010年から本部会が日本側の窓口となって毎年行っている「社会保障国際論壇」の大会が2018年9月14～15日（14回大会）に東北財経大学（中国大連）で開催された。この大会に関して、本部会では参加者（報告者、討論者、司会者、通訳者、自由参加者）を募集・選定し、日本から40名程度が参加した。

本大会の企画テーマは「社会保障とガバナンス」とし、日中韓3国でそれぞれ2名ずつ基調講演を行い、その他、年金、医療、介護、公的扶助、社会サービス、社会保障一般などの15の分科会で50の研究報告と討論が行われた。日本からの40名を含め韓国（40名程度）と中国（90名程度）から多くの参加者が参加し、全体大会は成功裏に行われた。

なお、2019年度には9月7～8日に韓国原州で大会が開催されることが決まっており、本部会では、同年5～6月にかけて日本からの参加者を募集し、現在、選定を行なっている最中である。

（文責：金 成垣）

5. 地域部会 2018 年度活動報告

【東北部会】

専ら部会世話人の問題から、この間の東北部会ではまとまった活動を実施できていないことに忸怩たる思いです。申し訳ありません。いまのところ地方部会会員の出入りをシステムティックに把握する方法がなく、ご自身からのご連絡か情報として伺う機会があった方についてしか把握できていません。

もともと、このところ相次いで、岩手大学、岩手県立大学、東北学院大学に、世話人が個人的に知遇を得ている、あるいは間接的に存じ上げている有力な若手研究者が赴任されました。この方々のうちから地方部会企画の開催を望まれる声もおききしています。ともあれ、今年度中には研究会・研究交流会を再開させる所存です。

(文責：熊沢 透)

【関東部会】

昨年度は新体制になり、体制の確認と今後の活動についての検討を行うにとどまり、部会としての活動ができなかった。

今年度からは研究会等の開催を行っていく予定であり、2019年7月に最初の開催を予定している。

(文責：山村 りつ)

【東海部会】

東海部会は下記の要領で開催されました。

日時：2018年12月15日(土) 14:00～17:00

会場：名古屋経済大学名駅サテライトキャンパス

54教室

1. 藤岡 光夫(静岡大学名誉教授)「社会問題としての被爆者の長期的健康障害と社会的課題—全数調査による統計分析—」
2. 玉井 金五(愛知学院大学)・大城亜水氏(神戸常盤大学)「日雇労働者と社会保険適用問題—大阪の調査から—」
3. 水野 勝康(社会保険労務士(愛知県社会保険労務士会常任理事))「公契約条例における労働条件確保措置の比較考察」

(文責：渡邊 幸良)

【関西部会】

2018年12月1日(土) 9:30～16:30まで、キャンパスプラザ京都・第1講習室において、第81回社会政策学会関西部会が開催されました。参加者は会員以外の方も含めて24名でした。以下に、報告者と報告テーマを記します。

午前の部：9:30～11:30 自由論題

報告1. 内田 雄介(大阪市立大学大学院経済学研究科博士課程後期課程)

「1980年代におけるアメリカ自動車産業の生産体制と作業組織の再編のうごきについて」

報告2. 楊 慧敏(同志社大学大学院社会学研究科社会福祉学専攻博士後期課程)

「中国における介護保険の展開—サービス供給の構造に着目して」

午後の部：13:00～16:30 共通論題

「外国人労働者の就労をめぐる」

座長：久本 憲夫(京都大学大学院経済学研究科教授)

報告1. 守屋 貴司(立命館大学経営学部教授)

「外国人労働者の就労問題とその解決策について」

報告2. 志甫 啓(関西学院大学国際学部教授)

「関西における在留外国人の特徴について」

報告3. 佐藤 卓利(立命館大学経済学部教授)

「外国人労働者と日本社会の課題」

(文責：佐藤 卓利)

【中四国部会】

2018年度は以下の通り研究会を開催した。

日時：2018年11月17日(土) 13:00～16:30

会場：県立広島大学(三原キャンパス)4号館 4204号室

テーマ：「多様化する介護サービス供給者の行方」

プログラム：

第1部 13:00～15:50

(1) 金谷 信子(広島市立大学教授)

介護保険サービス市場化のジレンマ—効率性と質・公平性の観点から

(2) 史 邁(同志社大学大学院生)

福祉市場化の展開経路に関する日中比較研究—高齢者福祉分野を中心に

(3) 崔 銀珠(福山平成大学専任講師)

韓国における老人長期療養保険制度の現状と課題

(4) 山中 康平(社会福祉法人新生福祉会理事長)

人口減少が加速する地方における介護人材の確保の問題—技能実習制度との関係

第2部 総合討論 16:00～16:30
司会・コーディネーター: 田中 聡子 (県立広島大学教授)
参加者: 17名

(文責: 江本 純子)

【九州部会】

2018年度は以下の通り研究会を開催した。
九州部会第103回研究会
日時: 2018年10月27日(土) 14:00～17:30
会場: 九州産業大学 経済学部 中会議室
プログラム:

- (1) 久本 貴志 (福岡教育大学) 「ニューヨーク市の就労支援: 就労困難層への取り組みと work-first」
- (2) 石井まこと (大分大学) 「地方圏における自営業セクターと多様な就業・生活—地方若手創業者への

インタビュー調査からの考察—

参加者数: 7名
九州部会第104回研究会
日時: 2019年2月16日(土) 14:00～17:30
会場: 西南学院大学 中央キャンパス
学術研究所第2会議室

プログラム:

- (1) 平方 裕久 (九州産業大学) 「イギリス福祉国家再編における公共の思想: Julian Le Grand の準市場論を手がかりに」
- (2) 阿部 誠 (大分大学) 「就労困難者にたいする就労支援の意義」

参加者数: 11名

(文責: 久本 貴志)

6. 会員のご逝去について

井上雅雄会員が2019年3月1日にご逝去されました。謹んで、ご冥福をお祈りします。

埋橋 孝文

7. 2016-2018 年 期幹事会報告

【第6回幹事会 議事録】

メール会議: 2019年4月22日～30日
5月18日の高知県立大学での総会に提出する概要以下の活動報告と活動方針案、および規定改正案、名誉会員の推挙案を了承した。

1. 活動報告の確認

1) 若手会員にとって魅力的な企画の充実

- 日韓若手労働研究者フォーラム2018
日時: 2018年10月6日(土)～10月8日(月)
- 2019年春138回大会教育セッション(質的調査, 量的調査)
- 70年記念事業の中で, 若手会員を対象にした事業を実施予定。

2) 地方部会の活動の一層の活性化と広報活動の充実

- 活動状況の資料を作成しそれをもとに幹事会での議論開始(専門部会についても活動状況の資料を作成)
- 他の地方部会所属の会員の参加を促進するために, 地方部会の開催案内を会員一斉メールで周知することにした(東海部会, 関西部会, 中四国部会, 九州部会)。
- ジェンダー部会, 総合福祉部会の部会員の更新を一斉メールを用いて実施

3) 大会プログラムと運営のあり方の一層の改善

- 「基調講演等の運営・進行に関するマニュアル」を作成し, 幹事会, 春季, 秋季大会企画委員会に提示, 議論
- 共通論題時間の短縮化を漸次実施することを幹事会で合意

4) 「学会戦後再建 70周年記念事業」の準備と実施

- 重点事業担当の禹・所・垣田の3幹事のもと3つの事業案を作成, 提示(NL98)
- 記念誌刊行委員会の玉井幹事のもと刊行案を作成, 提示(NL98)

5) その他

- 2020年秋の大会: 立命館大学に決定
2021年春の大会: 一橋大学に決定
- 事務局
 - ①各種委員会(選挙管理委員会, 学会賞選考委員会, 英文ニューズレター担当)の引継ぎ資料の完備に向けた措置を講じた
 - ②各委員会委員からホームページに掲載する項目の目安となる資料を作成
 - ③専門部会, 地方部会の開催状況の資料を作成
 - ④会員数, 大会報告数, 大会参加者数, 会費動向に関する統計を収集

- ⑤若手会員にとって魅力ある学会に向けた他学会の取り組み資料の作成⑥幹事会議事録、ニューズレターの項目の一覧表を作成

2. 2019 年度活動方針の確認

■これまでの活動方針の以下を踏襲

- 1) 年 2 回の大会開催
- 2) 年 3 回の学会誌発行
- 3) 年 4 回のニューズレター発行
- 4) ヨーロッパ、アメリカ、韓国、中国との国際交流
- 5) JASPS Bulletin (英文ニューズレター) 発行の定着化

■2018 年度の新たな以下の取組みを継続

- 1) 若手会員にとって魅力的な企画の充実
- 2) 地方部会の活動の一層の活性化
- 3) 大会プログラムと運営のあり方の一層の改善
- 4) 「学会戦後再建 70 周年記念事業」の準備と実施

■2019 年度の新たな取組み予想される会員減に対する対策の検討開始

3. 規程改正

- 1) 学会賞表彰規程の改正を確認(2月9日幹事会承認済み)
- 2) 国際交流旅費規程
- 3) 社会政策学会旅費規程(会員からの問い合わせに応じた文言の整理)

4. 名誉会員の推挙

土田武史, 猿田正機, 相田利雄, 森廣正の 4 名を幹事会として推挙することを決定.

5. 報告事項

「重点事業」(案)を総会承認事項ではなくて幹事会承認事項とし, 総会に報告する. 下記の「若手研究者優秀論文賞表彰規程」は総会承認事項.

- ・「若手研究者優秀論文賞」は, 2020 年春季大会から施行することとする.
- ・「若手研究者優秀論文賞表彰規程」(仮称)を設け, 2019 年度秋季大会総会にて審議にかけることとする.

6. その他

以下を確認した.

2019 年 4 月 20 日, 次期幹事選出に関わる以下の選挙管理委員 5 名の委嘱を決定(役員選挙に関する規程第 3 条「選挙管理委員は, 幹事会が会員の中から委嘱する」)北海道・東北ブロック—宮本章史, 関東・甲信越ブロック—山縣宏寿, 東海ブロック—水野有香, 関西北陸ブロック—大塩まゆみ, 中国・四国・九州ブロック—萩原久美子

【第 7 回幹事会 議事録】

日 時: 2019 年 5 月 17 日(金) 14:00~18:00

場 所: 高知県立大学永国寺キャンパス
教育研究棟 A 棟 326 室

出 席: 阿部, 石井, 伊藤, 埋橋, 禹, 遠藤, 鬼丸,
垣田, 郭, 熊沢, 所, 吉村, 玉井, 森, 李,
長澤紀美子(大会実行委員長代理)
木村 保茂(学会賞選考委員長)

欠 席: 岩永, 榎, 大沢, 金, 首藤, 杉田, 兵頭, 朴,
戸室, 中尾, 上村, 畑本

1. 2018 年度活動報告について

埋橋代表幹事より, 前回のメール審議で了承を得た 2018 年度の活動報告があった.

- ①若手会員にとって魅力的な企画の充実
- ②地方部会の活動の一層の活性化と広報活動の充実
- ③大会プログラムと運営の在り方の一層の改善
- ④「学会戦後再建 70 周年記念事業」の準備と実施

2. 2019 年度活動方針について

埋橋代表幹事より, 総会で提案する 2019 年度活動方針についての説明があり, 承認された.

3. 名誉会員の推挙

埋橋代表幹事より, 名誉会員として, 土田武史, 猿田正機, 相田利雄, 森廣正の 4 名を幹事会として推挙することの提案があり, 了承された.

4. 重点事業について

禹幹事より, 5 月 8 日に開催された若手懇談会についての報告があった. 若手の意見を参考にして, 「重点事業」(案)の第二事業, 第三事業を削除し, 第一事業の「若手研究者優秀論文賞」のみとし, 2020 年春季大会から施行すること, 「若手研究者優秀論文賞表彰規程」(仮称)を設け, 2019 年度秋季大会総会にて審議にかけることが承認された.

優秀論文賞の具体案については引き続き検討することとした.

5. 選挙管理委員会の委嘱について

埋橋代表幹事より, 北海道・東北ブロック—宮本章史, 関東・甲信越ブロック—山縣宏寿, 東海ブロック—水野有香, 関西北陸ブロック—大塩まゆみ, 中国・四国・九州ブロック—萩原久美子を委嘱するとの報告があった.

6. 2018 年度決算書と 2019 年度予算書について

所事務局長より, 2018 年度の決算書について説明があった. 収入について, 会費収入と大会参加費が減ったこ

と。その詳細について、会費納入状況は90%であり、2018年度末までに滞納会員のなかの除名対象（3年滞納した会員）の人数は13名であること。大会参加費について、北海道地震の影響があることとの説明があった。支出について、旅費は予算を超えたが、その理由について、旅費規程の修正により、旅費原則全額支給になったためであるとの説明があった。

また、2019年度の予算書の原案を示し、昨年度からの変更点として、重点事業の追加および重点事業準備を特別会計へ移行、学会賞関連旅費項目を入れるなどを中心にして説明があり、総会での予算案の提案として了承された。

7. 学会賞選考委員会報告

木村保茂選考委員長より、選考の経緯、受賞者についての報告があり、了承された。

【学術賞】該当なし

【奨励賞】濱島 淑恵「家族介護者の生活保障—実態分析と政策的アプローチ」旬報社、2018年9月
選考に当たり課題として挙げた選考対象の検出方法について引き続き幹事会で議論することとした。

8. 春季大会企画委員会報告

鬼丸委員長より、第138回大会の準備フルペーパーの提出状況、司会変更や大会時の託児システムについての報告があった。フルペーパー未提出の場合の取り扱いについて引き続きの審議事項とした。

9. 秋季大会企画委員会報告

吉村委員長より、第139回大会準備状況について報告があった。

10. 国際交流委員会報告

国際交流委員会資料（埋橋代表幹事代読）をもとに、2019年度の国際交流事業の予定、「国際交流活動費規程」の提案理由について報告があった。

また、国際交流事業における報告者のフルペーパーについて、今後の国際セッションの原稿準備の方向として、学会報告原稿の提出規定に適用しないこと、ご本人が原稿を提出したいという希望がある場合は企画委員会が対応することとし、幹事会の承認を得た。

11. 学会誌編集委員会報告

石井委員長より、学会誌の刊行進捗状況、投稿論文数および審査の状況、査読専門委員の交代について、また、編集委員会内での今後の検討事項についての報告があった。

12. 広報委員会報告

伊藤委員長より、RSSによる「研究会情報」について、新しいサービスへの移行で古いブログが閉鎖されることの説明があった。審議の結果、直ちに新しいブログを立ち上げ、研究会情報を発信することになった。

金副委員長より（埋橋代表幹事代読）、英文ニューズレターNo.3が発行され、引き続き発行作業が順調に進んでいること、業者の変更により費用が安くなったというメール報告があった。

13. 入会申込者について

所事務局長より、入会希望者11名の報告があり、入会を了承した。

14. その他

埋橋代表幹事より、会員から会費割引の問い合わせについての説明があった。会費規程第2条の「会員は、会費として毎年10,000円納めるものとする。ただし大学院生並びに常勤職に就いていない会員は、毎年7,000円納めるものとする」にしたがって、常勤職に就いていない会員にはいわゆる定年退職者などを含むことを幹事会で確認し、了承された。

2021年秋の大会を福島大学で開催することが決定した。

遠藤幹事より、社会政策関連学会協議会主催で、6月29日（土）14:00～17:00に明治大学で「経験者が語る修士論文完成まで」シンポジウムの学習会が開かれることのお知らせがあった。

15. 次回以降の幹事会の日程

2019年6月9日（日）12:00～高知県立大学永国寺キャンパス教育研究棟A棟326室にて開催すること、その次の幹事会は、2019年6月30日（日）14:00～同志社大学にて開催予定であることで、了承された。

8. 承認された新入会員(5月17日幹事会, 5月19日幹事会)

氏 名	所 属 名 称	専 門 分 野
谷 政敏	立命館大学大学院経済学研究科	労使関係・労働経済
花戸 優児	和歌山大学大学院経済学研究科	社会保障・社会福祉
行貞 伸二	大阪体育大学社会貢献センター	社会保障・社会福祉
金 根三	立教大学経済学部	社会保障・社会福祉
岩田 千栄美	大阪市立大学大学院創造都市研究科	ジェンダー・女性
三好 禎之	大分大学大学院福祉社会科学研究科	労使関係・労働経済 社会保障・社会福祉
新川 綾子	日本福祉大学福祉経営学部	社会保障・社会福祉
竹田 次郎	同志社大学大学院社会学研究科	労使関係・労働経済
朴 峻喜	埼玉大学大学院人文社会研究科	労使関係・労働経済
濱田 江里子	千葉大学法政経学部	社会保障・社会福祉
鈴木 由真	東京大学大学院教育学研究科	社会保障・社会福祉
川野 英二	大阪市立大学大学院文学研究科	社会保障・社会福祉
大井 方子	高知県立大学文化学部	労働関係・労働経済